

2023.12.31. どうやって思いを新たにするか

Mac 牧師

頭を下げ、一緒に祈りましょう。主よ、私たちが、あなたにしがみつく事を覚え、忘れませんように。多くの場所で、教会が飛躍について語り、成功する事を強調するのを目にします。でも主よ、それは試練の意味で、ヤコブ (1:2 参照) は語ります。

「様々な試練があっても、私たちが何とかするのではなく、私たちが耐え忍ぶことに集中し続ければ、祝福され、私たちの忍耐は強められ、私たちの信仰は主よ、全てに責任をとってくださるあなたにおいて強められるのだ。」とですから主よ、一年を顧みて、私たちが耐え忍び、これ以上無いほどの力を込めて、私達はあなたの御名を崇め、賛美を捧げます。もう時が迫っているからです。主よ、私たちに強さを与えてください。聖霊よ、私達を満たして下さい。私たちが世に出て行き、イエスよ、あなたの御名を宣言できるように。あなたが私たちの主で、救い主です。私達は新年を祝い外に出て、そんなふうには振る舞うでしょうか。全ての膝が屈められ、全ての舌が告白する (ピリピ 2:10-11) 唯一のイエスの力強い御名を。主よ、このことをあなたの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン。主を褒めたたえます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。では、おはようございます。皆さん全員に祝福と平安が増し加わりますように。皆さんが、元気でいらっしやることを祈ります。カルバリーチャペル・カネオへの日曜日の礼拝によろこそ。初めて来られた方、私達はあなたを「アロハ」で歓迎します。来て下さり感謝します。ここで過ごされるフェローシップと今朝示される神の御言葉で祝福されるよう祈ります。次回の「祈り会」のお知らせをします。ここ礼拝堂で、1月9日夜7時からです。可能な方は、一つの体として共に祈りましょう。是非いらして下さい。できる限りの祈りが必要です。皆さんが毎日、主がそうするようあなたの心に置かれるたび祈っておられますように。聞いてますか？ 私たち全員にとっての挑戦として、皆さんが祈っていることを願います。私達は祈る必要があります。ですから、ご都合がよろしければ、ぜひお越しください。来ることができなければ、御霊において共に祈ってください。では、始めましょう。さて、大晦日です。新年おめでとうございます。(会衆：新年おめでとうございます。) 全員が、明日新年を迎えられますように。私は寝ているでしょうけど、皆さん分かるでしょ。私達は生きているでしょう。言ってることわかります？ でも、いやいや、新年おめでとうございます。そして祈りにおいて、私達は新年を楽しみにしています。過去から学べる教訓のうち、私達を駆り立てるものだけを取り入れる。ですから再度、新年おめでとうございます。皆さんが素晴らしい夜を過ごされますように。それでは、日曜日の朝は、2つの礼拝があって、第一礼拝は、通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は、「説教」に専念します。しかし、今日は2つの特別題材の学びをします。で、第一礼拝は、皆さんを「ローマ人への手紙 12章」にお招きします。今朝の箇所の聖句朗読のため、可能な方はご起立下さい。続いて祈りの言葉を捧げます。繰り返します。「ローマ人への手紙 12章」有名な2節、神の御言葉が語ります。

ーローマ 12:2ー

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心(思い)を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

今朝の学びへ、主からの祝福を祈り求めましょう。

天のお父様、あなただけが御出来になられるように、主よ、ここで私たちに会って下さい。あなたのご

臨在に前もって感謝します。あなたが私たちのためにご用意くださったこのメッセージを聞くことによって、あなたが私たちに与えて下さる勝利に感謝します。私たちの耳を開き、そしてもっと大切なのは、真理の御言葉を受け入れるよう心を開いてください。この季節、私たちがこの世に出て行くとき、あなたの御言葉のより良い管理者となりますように。ですから主よ、この時間をあなたに捧げ、あなたがなされる全てに感謝します。あなたの御名にすべての栄誉と栄光がありますように。私たちはあなたを愛し、あなたを賛美します。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ありがとうございます。どうぞご着席ください。では、今朝の第一礼拝の学びのタイトルは、

『どうやって思いを新たにするか』神の御霊による神の御言葉が、私たちの思いを新たにすることは言うまでもありません。でも、その中で私たちが果たすべき役割とは？ 実際にどのようなものなのか？ 私は自分が分かっていますが、何か言われても、口頭で言われるだけだと私は本当にイライラするタイプです。ついてきていますか？ あなたはただ言われただけ。そう、私は、"事"の背後の "理由"が知りたいのです。もしやその"理由"が主を示すことができるのか。それから、"事"の背後の "理由"だけでなく、"事"の背後の "理由"の「方法」も。皆さん、ついてきていますか？ だからといって、すべての発言がそれを示してもらわなければならないという意味ではありません。違います。でも、人生を変えるようなことに関して、私は明確に示してほしいのです。決めつけたくはありません。私が知っているのは、聖典に書かれていることはすべて、人生を変えるものだからです。だから私は子供のようになって、

「示して。どうするのかを。例を挙げて。」そうすると私は、自分の役割を効果的に果たせるから。また私は、それがわからないと、間違った方向に進んでしまうタイプです。私にはそれが必要です。もしかしたら、皆さんの誰も、そうではないかもしれませんが。誰かがあなたにケーキを焼けと言う。もちろん、問題ありません。パッ、これがケーキ。私は方向が知りたいのです。ご存知、私は自分の歩みの中でこれが、私が主の御名においてしていることの理由だ、と思っていたことが、方法を知らなかったために、完全に間違っているとは言わないまでも、大きく外れてしまうことがありました。私たちは、要素を探し出さなければなりません。その理由、その事柄の、その方法を。これらすべてが決定的に結びついています。そして、少なくとも私の視点から、具体的でより詳細な分析が必要なのは「その方法」です。また、ある特定の状況においては、「多くの方法」があることも知っています。皆さんの多くの方同様、私はできるだけ多くの「方法」を取ります。この学びが、すべてを網羅するものではないにせよ、私の祈りはこうです。もちろん、まずそれは主にとって喜ばれるものであり、同時に、特に新年を迎えるにあたって、私たち皆にとって徳を養うものであること。私たちは、神の御言葉を新たな視点で見ることを試みるべきで、神の御言葉は、活発で活きているからです。私たちはそれを活用する必要があります。そして最も確かなのは、これらの節がどんなに古いものであっても、私たちは常に、考慮し、適用する新しい人生の教訓を学ぶことができます。ですから、主の御許しを頂いて、聖書に基づいて、私たちがどのように思いを新たにすべきかを、まず本文の冒頭に書かれていることを取り上げながら見ていきます。なぜなら、もしこれが適切に対処されなければ、思いを新たにすることにも、真の弟子になることにも希望はありません。最終的にここを乗り越えれば、この点について、時間をかけるつもりなので、その後、さまざまな箇所を解説していき、私たち全員が、これらの聖書の真理をよりよく適用できるようになり、最終的に、「何が善で、(神に) 喜ばれ、完全な神の御心」であるかを証明することにつながるのを願います。それがゴールです。そういうことで、「ローマ人への手紙 1 2 章 2 節」前半に取り組みましょう。

この節で、まず神の御言葉が語るのは、ご覧ください。「この世と調子を合わせてはいけません。」

それが分かりますよね？「この世と調子を合わせては”いけません”。」私たちの思いが新たにされることに関して、こうしないと、何も起こらないだろうと私は、信じています。”どうか注意して聞いて下さい” 私たちが「この世と調子を合わせない。」と決断するまでは。事実、これが私たちの思いが新たにされる最初の方法です。私たちはこの決断をしなければなりません。「この世に調子を合わせたくない」と自分の思いの中で決断することが、まさに最初の一步です。何が私の助けになるかわかります？ これを命令にする。分かりますか？ それを命令にする。調子を合わせない。これは、世の中のやり方から思いを切り離すことを決心せよ、という命令です。また、この声明、指令、命令で分かる通り、問うべきは、それがどのようになされるのか？ どうすれば、この世から思いを切り離し、脱洗脳し、この世に適合しないようできるのか？ 私たち全員が生きねばならない世なのに、私たちは思いを新たにせねばならないとされているのです。どうやって？ そう、もちろん、すべては聖霊の御力によります。しかし、繰り返しますが、このすべてにおいて、私たちはどのような役割を担っているのか？ ええ実際のところ、私たちがその役割を果たすことは決してありません。まず最初に、この世と調子を合わせないことを決断しなければ、私たちは、自分の役割をまったく果たせません。皆さん、私についてきてほしいと思います。先に進む前に、ここで語られているのが当たり前のことのように思えても、どのような種類の「調子」なのかを知る必要があります。決めつけたくないからです。この聖句の意味の "調子"とは、私たちの行動に結びつくからです。ですから、文脈を整理してみると世と同じように、振る舞ってはいけないという意味なのがよくわかります。でしょ？ しかし、ここで注意しなければならないことがあります。多くのクリスチャンがここでつまづき、律法主義や、非聖書的な重荷となるその他のさまざまな命令に陥るからです。そして結局、彼らはどうなるのか？ 彼らは結局、世に影響されてしまう。あまりにも耐えられないからです。彼らは世に調子を合わせ、世俗的生活を送ることに決める。ですから、理解ください。これは律法主義についてではなく、究極的に、キリストにあって神のために生きることについてです。なぜなら世俗的な振る舞いは、世俗的な振る舞いは常に、神の御言葉に敵対します。私たちの自然な気質は世俗的です。私たちが理解するのを願います。私たちは大抵、この世によって形造られます。また問題の真実は、私たちが、御言葉に積極的に順応するのが必要な時、私たちは常に受動的に世に調子を合わせているということ。違いが分かりますか？ 私たちは何もしなくても、世から影響を受けています。毎日、毎日、私たちに叩き込むから。でも、「調子を合わせない」ためには、私たちにやるべきことがあります。ですから、私たちは再度「調子を合わせない」と決断しなければなりません。もちろん神の御言葉に与り、それがどう見えるかを知る。でも本文中の「世」という単語に関しては、もうひとつポイントがあって、ここで使われている "世"という単語は、実際には "時代"という単語で、この節で "悪の時代"と定義されているからです。考えてみて下さい。それは大きな衝撃を与えます。それは、私たちが生きている邪悪な時代全体を通し、絶えずこの世に調子を合わせないようせねばならない事実を物語っているからです。言い換えれば、一回限りの決断ではありません。それは、世が回っていく中で、日々吟味することなのです。「日の下には新しいものは一つもない。」(伝道者 1:9)

でも、悪は、欺くためにその手口を変え続けていることを私たちは知るべきです。この邪悪な時代について、私たちはこのことを理解していますか？ またこれは、この決断がプロセスであることも示します。時間がかかります。私たちはこれを生き抜かねばなりません。私にとってこのことは、私たち全員が十二分に理解する必要があります。でも特に、まずキリストに辿り着いた私たちにとって、これを理解することは重大です。繰り返しますが、この世と調子を合わせないためには、多くの行いと時間が必要だからで、

しかし、もし私たちが自分達の人生においてこうすることを望むなら、私たちは私たちの役割を果たし、意図的に決断せねばなりません。それから、私たちの思いを新たにすることで起こること共に、聖霊の御力によって、全てが自分の内になされるよう許可する。これら全てを見るとき、この全てが「弟子としてのあり方」に繋がっていることが分かるのを願います。それは、この全てを通して、弟子としての素質です。なぜなら、覚えて下さい。救われることと、真の弟子であることは同じではありません。多くのクリスチャンは、このことに問題があります。「私はキリストのもとに来た。私は弟子だ。」いえいえいえいえ、違います。そう慌てずに、相棒よ。それは全く違います。そして、私は、何が事実か言います。彼らは、キリストの下に来た時、自動的に弟子であると考えている。彼らは、思いを新たにすることが全くないから、あらゆる失敗にまみれた人生を送っている。なぜか？ なぜなら彼らは、自分の人生をこの世に調子を合わせないと決断することに失敗しているからです。彼らがすることは、救われたから、自動的に自分はイエスの弟子だと思い込んで、そうして、この世に合わせることなく、この思いを新たにするプロセス全体が聖霊によって自動的に行われるという考え方が生まれる。そういうわけにはいきません。違う、違う、違う、違う。私は、このことを知っていればよかったと思います。でも私は知りませんでした。この賛美の歌詞に注目してほしいです。「私は、イエスに従う事に決めた。」この歌詞はまさにその通りです。まず第一に、決断する。それから従う。「私は救われると決めた」とは語っていません。私たちはこれを心に刻むべきです。「救われること」と、「救われた弟子であること」の違いを、聖句に示していただきましょう。「ヨハネの福音書 6 章 47 節」に記されています。神の御言葉は、救いは決して失われることはないと保証しています。救いは決して失われることはありません。神の御言葉をお読みします。

—ヨハネ 6:47—

まことに、まことに、あなたがたに言います。(わたしイエスを) 信じる者は永遠のいのちを持っています。

このような聖句はたくさんあります。でも、要点は分かりますか？ 救いは決して失われることはない。いったん救われたら、救われないことはありません。しかし、その一方で弟子であることに失敗する可能性があります。「ルカの福音書 14 章 33 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

—ルカ 14:33—

そういうわけで、自分の財産すべてを捨てなければ、あなたがたはだれも、わたしの弟子になることはできません。

これが分かりますか？「救われない」と書いてありますか？ 皆さん、これが分かりますか？ これは救いについてではありません。「これは弟子として」についてです。弟子になることは、極めて容易い事ではありません。(直訳：公園を散歩することではない。) 救いは、全てが神の恵みであることを私たちは知っています。神の恵み。この真理は「エペソ人への手紙 2 章」良く知られる 8 節、9 節に記されています。神の御言葉は仰せられます。

—エペソ 2:8—

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

—エペソ 2:9—

行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

しかしながら、弟子であることは、私たちがそれ相応に裁かれる主にあつての行いです。それは聖書の至るところに書かれています。そのひとつが「ヨハネの黙示録」22章12節にあります。神の御言葉をお読みします。

—黙示録 22：12—

「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。」

皆さん、ついてきていますか？ 神が仰っておられる意味を皆さんに言います。これは弟子であることについての話です。留意ください。救いは、キリスト・イエスの十字架上の完了された御業の故です。あなたはそれに同意しますか？ 良かった。主を褒めたたえます。話の向かう先があります。「使徒の働き」2章36節に、この真理があります。神の御言葉をお読みします。

—使徒 2：36—

ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

「完了した。」(ヨハネ 19：30)

私たち自身が、十字架上で完了された御業に足したり、取り除いたりするようなことは何もできません。何もありません。その一方、弟子になる事は、自分の十字架を背負うこと。このことは、「マタイの福音書16章24節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

—マタイ 16：24—

それからイエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」

これは弟子なることについての話です。またイエスは、「わたしに従って来なさい。」と仰っていることを見逃してはなりません。これが分かりますか？ 繰り返します。これはイエスに倣い、イエスに従うことを決意することです。これが弟子の特質です。でも、救いとなると、私たちはシンプルにイエスのもとに来なさいと言われていています。このことは「マタイの福音書」11章28節から分かります。神の御言葉をお読みします。

—マタイ 11：28—

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

これは「救い」です。繰り返しますが、聖書から、「救い」は神からの無償の贈り物であることを私たちは知っています。神からの無償の贈り物を受け取る以外に、私たちが「救い」のためにできることは何もありません。毎週日曜日にこの話をしています。特に「ローマ人への手紙6章23節」で。しかし、弟子であることというのは、自分自身を贈り物として捧げることです。この真理は、今日の章に記されています1節、神の御言葉は語ります。

—ローマ 12：1—

ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたまさげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。」

皆さん、違いが分かりますか？ 違いがあります。私たちがこれを理解するのを祈ります。弟子になる事は、意図的な決断だからです。実際、私たちはイエスから、代償を払うよう言われています。「救い」ではありませんよ。弟子であることの代償を払って、イエスに従う。簡単にはいかないと言われていています。

それは服従です。そして、良い、敬虔な働き。クリスチャンとして前進するためには、この理解を持たねばならないと私は心から思います。私たちが一旦救われると、神の御言葉によって靈的に変貌するために、私たちは皆、この世に調子を合わせないと決断せねばならないからです。これが、私たちの思いを新たにする始まりです。これが、聖霊が私たちの内に入られ、私たちをすべての真理へと導くために必要な余地を生むからです。皆さん、分かりますね？ 聖霊が私たちを、すべての真理へと導いてくださいます。聖霊は私たちをすべての真理へ強制はされません。私たちにはまだ自分の意志があり、そして、何も良いものが住んでいない、対処すべきこの肉体があるのです。繰り返しますが、正直に自分自身に問うてください。私たちは本当に、この世に調子を合わせないと決断したのかを。私たちは自問自答しなければなりません。で、考えてみて下さい。私たちが靈的に成長しないのは、この世にしがみついているからで、それで聖霊がこう仰る事を期待している。「わたしにまかせなさい。あなたは救われています。わたしはあなたを、弟子のなかの弟子にします。座っていなさい。もう大丈夫。」

私たちの多くは、そうやって行動します。それは大きな問題です。これも言わせてください。信じられないかもしれないでしょうが、救われていないイエスの弟子たちがいます。混乱しますか？ ユダに聞いてみてください。お、で、混乱しないはず。行い以外何もしない人たちがいます。何も。彼らは信じていません。説教壇の後ろにも、不当な利益のため同じことをする人々がいます。大学や神学校で教える人々の中には、イエスを信じていない人もいます。彼らは、みんなユダたちです。最後には、彼のように吊るされます。

では、この地点を通過して、私たちは皆、この世に調子を合わせないと決断しないなら、いつかある時点で、この世に飲み込まれてしまうことをしっかりと認識しなければなりません。「第一コリント人への手紙 7章31節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

—I コリント 7:31—

世と関わる人は関わりすぎないようにしなさい。(↓これ聞いて下さい) この世の有様は過ぎ去るからです。

この世の有様は、あらゆる領域で過ぎ去っていきます。世に調子を合わせ続ける者は皆、世と共に過ぎ去ります。世は、心を奪います。多くのクリスチャンがその犠牲になっています。おお、彼らはまだ救われていますよ。彼らは世俗的なクリスチャンですが、この世の犠牲になっています。彼らは世を手放せないからです。そして彼らは、世と過ぎ去ります。そういうことです。私たちはこの真実を理解する必要があります。忘れないようにしましょう。私たちが生きている時代は、悪です。ですから、私たちがこのことを本当に理解するなら、そうすれば、適切な展望と一緒に自分自身に対する適切な期待を持って前進することができます。この思いを新たにするプロセスは、最後には、全員が同じツールを使うことになって私たち一人ひとりが異なるからです。皆さん、ついてきていますか？

では、私たちが思いを新たにする方法とは何か？ 他の方法を効果的に導入し、実行するにはどうすればいいのか？ 私たちはひとつ知っています：まず、世から切り離す必要がある。でなければ、何もかもみ消されます。では、"どこで"、"どのように"神の御言葉の中にいるかについて話しましょう。ここで私は、自信を持って言えます。「とにかく御言葉に従え！」それは間違いなく自信を持って言えます。何かの仕組みや体制だけに縛られたくないからです。そうなれば、神ではなく、それがあなたが実際に仕えるものになります。ですから、その点には細心の注意を払ってほしいのです。しかし、私が正しい方法で正しい心で進むなら、仕組みと方法を持つことが有益になり、神はそれを祝福下さり、尊重下さいます。

長年にわたって、私に素晴らしい効果をもたらした方法を言いましょう。驚異的で、その背後にある豊かさは、もの凄いです。私はこの方法を保証します。私たちが神との歩みの中でどこにしようと思いを新たに
するプロセスとして。で、それは何か？

OK。まず、朝早く起き、もちろん祈り、それから御言葉を読み、その日の「箴言」を黙想する。御言葉
を黙想するその背後にある豊かさ：自然な感覚を超えて思いを揺さぶります。神の御言葉は超自然的
だから。実践してみましようね。今日は31日ですから、「箴言31章」を開きます。私は祈りを捧げま
した。自分の心構えは出来ています。「主よ、私に御言葉を開いてください。」読み始めます。

—箴言 31:1—

マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば。

ここで止まって、自問します。「この節の中で、私が理解できないことは？ この一節に、私が黙想でき
るようなことがあるのか？ 考えてみよう。レムエル王とは誰？ ああ、それは興味深い。確信はないけ
ど、この最後に "el/エール" がある。それは神と関係している。レムエルとはどういう意味か？」
調べて、神に献身する。止めて、祈りに戻る。

「天のお父様、私は、レムエルがほしいのです。私はあなたに献身するレムエルになりたいです。」
これが神の御言葉への黙想です。主はそれを尊重されない筈ありません。それは私のため？ (レ点)
主のご栄光のため？ (レ点) 黙想。驚きです。そのため、1節が終わらない時もあります。私たちは、「ヨ
シュア記1章8節」に書かれていることに留意すべきです。

—ヨシュア 1:8—

このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。(黙想せよ) ...

...そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁栄
し、そのとき、あなたは栄えるからである。

皆さん、これ分かりますか？ なぜこれなのか？ 御言葉は黙想するだけでなく、実行すべきだから
です。なぜそれを実行できるのか？ それを黙想しているからです。とてもシンプルです。(思いへの)
入力が見望ましい出力を生み出す。入力が良いければ、出力も良いはず。その入力が、他の入力チャン
ネルと競合しない限りは。分かりますか？ ですから、霊的なことに関して、私たちは自分の人生をこの世
に合わせるわけにはいかないのです。それが、思いへの二次入力チャンネルだからです。何が起こるか分
かりますか？ それが、神の御言葉の効果を、もみ消すのでは？

ええ、神の御言葉は空しく帰って来ることはありません。(イザヤ 55:11)

でも、理解してください。確かに世にはそれを無にするやり方がある。信じてください。一日中、"弟子
になる 15 段階プログラム"を好きなだけ、全部読むことができます。まだ世からの入力を殆ど受け取っ
ているなら、そのデータは上書きされます。すると、なぜ自分は成長しないのかと不思議に思う。

で、私たちは混乱し、動揺し、腹を立てる。「神よ、なぜあなたは、全てを変えないの？」このように、
2次入力を受けると、主にあって2歩前進しても、最終的にこの世のせいで10歩後退します。なぜか？
なぜなら、私たちはレムエル(神の人)ではないから。ええ、私たちは、レムワールド(世の人)だから。
でしょ？ 事実です。それが起こります。私たちの歩みは息苦しく、ほとんど、あるいは全く実を結ばな
い。ええ、良い実が。他の実は、おそらくバケツに山ほどあります。神の御言葉を黙想することについて、
もう一箇所見てみましょう。「詩篇119篇」15節16節です。神の御言葉をお読みします。

—詩篇 119:15—

私は あなたの戒めに思いを潜め あなたの道に私の目を留めます。

—詩篇 119:16—

私は あなたのおきてを喜びとし あなたのみことばを忘れません。

この無名の詩篇には、非常に独特なメッセージが込められています。神の御言葉を黙想に関するこのメッセージは、ご存知のように、理由があって、聖典の至るところで見られます。留意ください。作者はこう言っています。「私はあなたの御言葉を忘れません。」ではこの作者は、神の御言葉を忘れないために、どれだけの時間、黙想せねばならないのか？ それについて考えたことがありますか？ 私には、それは献身が必要だと思います。意図的な行為。それが、私たちの思いが真に新しく生まれ変わる唯一の方法です。大量に、毎日ですよ。事実、ダビデ王が聖霊によって最初に書いた詩篇は、昼も夜も主の掟を黙想するというものでした。聞いてますか？ ダビデ王は、昼も夜も主の掟を黙想しています。この件に関して、深刻なのは、彼は50歳の時、ヒッタイト人ウリヤを殺させたこと。でしょ？ ソロモンはどうですか？ 彼の著書は？ 最も賢明な人物が、偶像崇拜に墮落していく。私が触れているのは、それです。そう、守られています。彼らは主を追い求めていました。それなら、私たちのことをどう語っているのか？ 私たちがよく語るのは、神の御言葉に "いる" こと以上に "神の御言葉の中" にいることについて。それが問題です。それ以外にどうやって、思いを新たにすることができるのか？ 考えを変えコントロールすることによって。聖書は基本的に、私たちは考えたとおりの人間だと教えています。これは「箴言 23章」7節の前半に書かれています。神の御言葉をお読みします。

—箴言 23:7a—

彼は、心のうちでは勘定ずくだから。(彼は心で考える通りの人。)

さて、心と意思のつながりについて話してきましたね？ 事実以前、私は(心と意思は) "距離で隔てられているだけ" と言ったと思います。しかし、このことを理解することは私たちにとって非常に重要で、私たちの思いを新しくするための鍵であるとも言えます。私たちが考える方法、自動的に生み出される思考、そしてそもそもなぜそれを考えるのか。医者や科学者、脳を弄ぶいろんな人たちが、いろんなことを教えるのに不足はありません。彼らはこの、思考のために人生を費やしています。あまり没頭しすぎることなく、この全てに関連する一面を見るだけでも、とても役に立つと思います。それは、私たちの潜在意識と、ネガティブな潜在意識的思考が私たちの考えの一部になる前に、それを阻止する方法です。

ここまで大丈夫ですか？ それが私たちの気持ちに繋がり、それから、気持ちが私たちの感情状態に繋がり、そして感情状態が、私たちが信じることに繋がり、信じるものが、私たちがどう反応するかに繋がり、そして、私たちの反応が自分達の全体的な性格に繋がっていきます。それがその分野で、あるいは全体にわたって、私たちがなるものなのです。ですから、このような考えが私たちを捉える前に、それを捉える必要があります。その方法とは、こうした考えが浮かんだらすぐに対処することによってです。抑制するのではなく、捕まえる。これらの考えを抑制してはいけません。捕らえて、閉じ込め、対処するのではなく、抑えただけだから、敵につけ込む自由を与え、活動し始めます。違います。敵はそこで何かしています。手下が全員現れ、(ブツブツブツブツ) これや、あれや、それやを囁く。そして今や、あなたが考えているのは、あなたが抑制したその思考のことだけ。もはや抑制してはなりません。今、混乱としてあなたの頭の中にあり、暴れまくっています。で、思いを放ったらかしにするとどうなるのか？ どうなります？ ごめんなさい。何が起きているかは分かっているので思考があちこちに行く可能性があります。こんにちの世を見れば、明白です。抑制されない考えがどうなるかは見ての通りです。それは、彼ら

があらゆる種類の偽りの現実をもたらすことを可能にします。なぜなら世は、彼らには、現実の拠り所がないからです。だから、多くの基本的な真実を否定することが爆発的に起きている。基本的な真実を否定する。その中に、この性同一性論争も含まれます。これはめっちゃくちゃです。彼らには、現実がない。”人が考えることは何でも（あり）” でしょ？ それが、Ze/Zir, Xe/Xem 性別を問わない代名詞。

でもそれが、彼らが信じていることです。クリスチャンとして、どのような立場であれ、このようなことを許すわけにはいきません。聖書が、「すべての思いを捕らえなさい」と語るとき、それは私たちの考えではありません。それが分かりますか？ それは、神の知識に逆らうすべての考えです。

質問：この考えは神の知識に反するか？

それを捕らえてください。そして、キリストに従わせる。弟子はこれを実行します。私たちには神の御言葉の権威があります。そして愛を持って、私たちはこれをやるべきです。ですから、自分自身に問うてください。「あなたは弟子ですか？」このすべてはネガティブ思考です。なぜならそれは、神のお考えに反するからです。その理由だけで、その思考は捕らえられるべきです。繰り返しますが、私たちクリスチャンは、自分自身の考えも捕らえねばなりません。その背後にある「方法」とは、その中に含まれている「嘘」に対処することです。その考えに含まれる嘘に対処する。そのネガティブ思考がやってくると、そこには嘘があります。なぜなら神は良いお方だからです。神にネガティブなものは何もありません。何一つ。ですから、それが浮かんだら、「ちょっと待て。その中の嘘をどうにかしなきゃならない。」あなたは、その考えを聖書と照らし合わせ、嘘に対する真実を示す。すると、その考えは逃げ出します。でも、聖典のどこにそれがあるか知っていますか？ あるいは、嘘が来ると、聖典がないと、嘘に支配されてしまう。ここで何が起きているのかわかりますか？ 私たちは神の御言葉を活用し、それに挑戦しなければなりません。イエスがされたように、私たちもその嘘に対抗する必要があります。御言葉を活用する。それを指し示すだけでなく、信仰によって、それを信頼する。ついてきていますか？ 私たちの信仰が欠けているとき、主に呼び求め、自分の不信仰を助けていただくようお願いする必要があります。私たちはそれをしてきましたか？ 「主よ、私の不信仰を助けて下さい。」これが、汚れた霊から癒された少年についての記述のおもなポイントのひとつです。皆さん、その記述は覚えてますね？ 弟子たちはそれを追い出そうとしましたが、うまくいきませんでした。それでイエスはその子の父親に語られます。そのやりとりの間、イエスはその子の父親にこう仰いました。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」(マルコ 9:23)

「マルコの福音書9章」24節から25節を見てほしいと思います。イエスが、これをその子の父親に仰ったのを覚えておいてください。一緒に見ていますか？ イエスはその子の父親にこう仰いました。「信じる者には、どんなことでもできるのです。」神の御言葉は語ります。

—マルコ 9:24—

するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

この場面を考えてみて下さい。どう見えたでしょうか。25節にはこう書かれています。

—マルコ 9:25—

イエスは、群衆が駆け寄って来るのを見ると、... (なぜ彼らは走ってきたのか?)

なぜ彼らが走ってきたと思いますか？ その子の父親は叫んでいました。群衆は、騒ぎを耳にしたのだと私は思います。その子の父親は言った。涙ながらに叫んだ。「主よ、信じます。不信仰な私を助けて下さい。」それで群衆が駆け寄って来たのです。

...汚れた霊を叱って言われた。「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊。わたしはおまえに命じる。この子から出て行け。二度とこの子に入るな。」

信じてはいたが、自分の不信仰の領域を助けてくれる主を必要としていた父親の求めにイエスは応えられました。それについて私たちは何と言いますか？これが私たちの思いを新たにすることの問題ですか？私たちは信じていますが、主が埋めてくださる必要のある私たちには不信仰の領域があります。主を呼び求める。何度も何度も繰り返さねばならないかもしれません。私たちに、あの愚かな霊が思いの中に戻ってくるかもしれないから。ピッ。戻ってきた！もう入ってこないと言うまで、もう一度主を呼び求める。また興味深いことに、人々は、霊が追い出されたのを見て、その少年が死んだと思った。しかし、イエスは彼の手を取って、引き上げ、よみがえらせた。おお、この御言葉は、なんと真実なのでしょう。ついてきていますか？それは、キリスト・イエスにある私たち一人ひとりと同じです。この真理は、「コロサイ人への手紙」3章1～2節に記されています。神の御言葉が語ります。

—コロサイ 3:1—

こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

—コロサイ 3:2—

上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。

今日、これを読むと、コロサイの人々に与えたような衝撃は恐らくないでしょう。彼らはあらゆる宗教や迷信、多くの邪悪な慣習に対処していましたが、それらはすべて地上のものでした。今や、キリストは来てくださり、私たちに永遠のいのちへの青写真を与えてくださいました。なんというゲームチェンジャーでしょう。で、彼らは、神への心と神への思いを持つようにと言われました。私たちもです。主の神聖さを求める心、御力を求める思いを持ち、主の義を求める心、主の栄光を求める思いを持ち、主の御心に心を寄せ、御心に適う思いを持ち、主の愛に心を寄せ、御国への思いを持つ。それが、上にあるものを思うこと。そういうことです。それはすべて、求め、定めることによって生まれます。私たちがこれをするなら、私たちの思いは善で満たされ、同時に、内なる悪を止めるため、つまり潜在意識の思考が捕らえられずに好き勝手しないようにする障壁を築きます。私たちがこれを理解するのを願います。思いの整理がついたら、私達が天の思考で考え続けるように設計された聖句を積極的に追求できるはずです。私たちが目にしているのは進歩です。単なるアプローチです。他にも多くのものがあります。しかし、私たちの思いが新たにされ、私たちの歩みを助け、弟子となるため、こういう方法を活用できるよう祈ります。私の見解では、私たちが効果的に行動し、節を実行するには、できるだけ思いがクリアである必要があります。おもに「ピリピ人への手紙4章8節」にあるように。よくご存知ですね。神の御言葉をお読みします。

—ピリピ 4:8—

最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、

すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。(黙想)

どう生じるか分かりますか？今や、私たちは、毎日目にすることもできない物事について黙想するという、この任務があります。しかし、私たちはその違いを知らなければなりません。それは、、、これらは、、、このリストにあるものすべての要件を満たすものなのか？それを知る唯一の方法は、神のご性質を理

解することです。「どんなことであれ…」ね？ どうして愛すべきことだとわかるのか？ どうして称賛に値するとわかるのか？ 私たちは分かる必要があります。それは、神の御言葉によって分かるのです。私たちのすることはすべて、主の御言葉によって測られなければなりません。私たちが考えることはすべて、主の御言葉によって測られなければなりません。本当に思いを新たにしたいのなら、このことを考え、また喜んでそれに献身しなければなりません。分かりましたか？ 決断する。それが思いを新たにすることです。それが方法です。それは、世のあらゆる理屈に反しますよ。聞いてますか？ 科学者によれば、25歳から30歳の間に、学習能力がピークに達するそうです。分かりますか？ 彼らが何をするか分かりますか？ それから、彼らは戻ってきて、「ええ、言っておきますが、脳はここでピークに達しているしね〜」面白いのは、そんなコメントをする人たちは、ほとんどが50代から60代ですよ。でしょ？ 彼らはこのことで、何冊もの本を書いています。これ、お話ししましょう。神を求め、神への思いを持つようになるまで、本当の意味での学びは始まりません。そこからが学びの始まりです。それは何歳になっても起こるし、決して止まることはありません。ですから、科学者たちやこんなピエロに、思いについて何も言わせないことです。それは神の御言葉に反します。また、彼らは、知識の創造主、神への知識に反します。彼らは来て、主のご性質を理解する方が良いと思います。私たちが話している科学者たちが見ていることは全て、神の御言葉が語っていることとは全く対照的です。それは皆さんも私も知っています。「第二コリント人への手紙4章16節」にこのことが書かれています。これで締めくくります。神の御言葉は語ります。

—II コリント 4:16—

ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

これは科学的には理にかなっていません。なり得ません。でも、私たちにとって完璧に理にかなっていません。私たちは、科学を創造された神を知っているからです。しかし、あまりにも多くの場合、私たちは、この世に調子を合わせないと決断しない事で、再生プロセスを遅らせてしまいます。それが外見的な人間に何をもたらすか知っていますか？ 衰えのプロセスを加速させます。分かりますか？ 結論は、新たにされ、変容されたければ、決断しなければなりません。その決断をしなければなりません。私たちは祈り、神の御言葉を黙想する必要があり、日々、主と御国を求め、迅速に、ネガティブな考えを捕らえ、自分の不信仰を助けてもらうよう主を呼び求め、キリストに完全に服従するまで、このプロセスを何度も何度も繰り返す。これらすべてを行うことで、何がその「善で、(神に)喜ばれ、完全な神の御心か」を証明することができます。これが分かりますか？ そうすることを祈ります。それが今、私たちにあるすべてですから。

ご起立ください。祈りましょう。おお、天のお父様。あなたがあなたであられることに感謝します。私たちはあなたを愛しています。私たちは、あなたが真理の御言葉をなさることを知っています。私たちが出ていけるように、それらを私たちの心に封印され、あなただけが御出来になるように、その愛に満ちたご方法で確信を与え、思いを新たにし、私たちの思いを新たにされたから私たちの人生が新たにされ、あなたを別の光で、より輝かしい光で見ます。そうすれば、より一層あなたに仕えることができます。ですから、お父様、その機会で、私たちを祝福してくださいますか？ 私たちは本当にそれを望んでいます。それを私たちの心に置いてください。私たちはあなたを愛し、あなたがして下さっている事に感謝します。私たちはこれからも、人生で人生を通じてそれを続けます。救世主イエスの力強い御名によって祈り

ます。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7